



ペダル踏みしめ、ぐるっと一周160キロ
安曇川中学校「ツールドびわ湖」

●特集 ②-⑦ 高島市の台所事情

- 8-10 お知らせ拡大版
- 11 こころの絆
- 12 みんなで5・7・5
- 13 市長日記・省エネ長者作戦
- 14・15 まちなタ写真館
- 16 教育委員会 information
- 17・18 びょういんだより
- 18・19 健康生活
- 20 国保年金あらかると
- 21-25 情報おしらせ版
- 26 そうだ図書館に行こう!
- 27 窓口・納税
- 28 歴史散歩

高島市
歴史散歩

No.47

打下古墳の発見

現地説明会



平成13年(2001年)11月7日早朝、高島市の東南に位置する明神崎の山腹で行われていた打下浄水場配水施設工事現場から人骨が出土しました。発見当時は、発見された人骨がいつの時代のものであるか皆目見当がつかず、教育委員会が京都大学片山一道先生と奈良文化財研究所豊島直博先生のご指導を受け、発掘調査をすることとなりました。

人骨の出土状況については、長さ2m強の箱形の石囲いに納められ、内部は朱やベンガラで赤く塗られていました。出土人骨のほかには鉄刀一振と鉄剣一口が納められていました。

調査成果は、次の通りです。



▲復顔

- ・古墳名 打下古墳
 - ・所在地 高島市勝野(打下・日吉神社)
 - ・築造年代 古墳時代中期(約1500年前)
 - ・主体部 箱形石棺(棺内朱塗り)
 - ・副葬品 石棺内に鉄刀一振、鉄剣一口と鹿角装具、石棺外に鉄鏡一束(約10本程度)
 - ・被葬者 40〜60歳前後の男性
 - ・身体特徴 小柄な人物でおそらく身長155cm前後
 - ・埋葬法 仰臥伸展葬(仰向け)
- ここで重要なことは、めったに良好な状態で出土することのない人骨が美しく検出された事です。というのも、我々の住んでいる日本列島の



【高島歴史民俗資料館】
所在地：高島市鴨2239
電話：36-1553
休館日：月・火曜日
開館時間：9時～16時30分

この復顔人物像は、現在、高島歴史民俗資料館に展示されています。復顔人物像のほかに、人骨と一緒に出土した副葬品や発見当時の資料も展示してあります。ぜひ一度ご覧ください。(文化財課)

土壌は酸性度が強く、土中の人骨は大半が解けて土と化するからです。今回は頭蓋骨であることから、片山一道先生にお願いして出来上がったのが写真にある人物像です。

復顔人物像の特徴を一言で言い表すと、「のっぺり」した顔。言い換えますと、現代の関西圏にお住まいの中年男性に多い顔立ちと言えます。



秋は夕暮れ...
空気が澄んで美しくなってきました。

編集後記

▼夕焼け小焼けで、日が暮れて...虫や魚を追いかけて、夕焼け空になると今日はおしまい。豊かな自然に囲まれた記憶がよみがえります。

▼大きさは日本で一番、古さは世界で3番目、1,000種類を超える動物が生息している琵琶湖。高島市の子どもたちは、さまざまな形でこの琵琶湖にかかわっています。今月の表紙は、10月10日から1泊2日の日程で行われた安曇川中学校の「ツールドびわ湖」の様子をご紹介します。自転車での琵琶湖一周はこの事業は今年で5回目。「おはようございます」とさわやかなあいさつに、「がんばれ」のひとことに旅の無事を祈ります。全行程約160キロ。ペダルを踏みしめて走って見た琵琶湖は、彼らにはこのように映ったでしょうか。気持ちをきかっけ、「琵琶湖のためにできること。命をむ水の始まりの地として「知っている」から「知っている」。「みんなの一歩」を」とつなげていきたいと思います。

(広報担当 山本)